

# 平成30年 **1 1** 月の大阪森林便り

## 目次

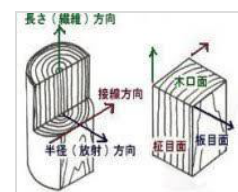
- 🌳 今月の木の話 きちんと乾燥した木材は狂わない
- (1) 🌳 着るロボット 林業に リース、初期費用抑制
- (2) 🌳 カナダ産製材品 下落 対日価格 日米で住宅需要低迷
- (3) 🌳 北米産丸太 2か月連続下落 日本向け輸出価格




## 今月の木の話

### きちんと乾燥した木材は狂わない

- ・水分を吐き出すと収縮し、吸湿すると膨張するため、木材の調湿機能が「狂い」の原因ともなります。
  - ・木材は繊維方向、放射方向、接線方向という3つの方向によって性質が異なる（木材の異方性）ので、伸縮の程度も方向によって異なります。
  - ・収縮率は、繊維方向：放射方向：接線方向＝4：60：100です。
  - ・このため、反ったり、ねじれたり、割れたりします。
  - ・このような「狂う」という欠点は、木材をよく乾燥させることによって防げます。
  - ・針葉樹は一定の乾燥をして、さらに安定期間約6か月を置くとほとんど狂わなくなります。
  - ・一般的に、木材は平衡含水率（12～16%）まで下げれば狂わないとされています。
- ※平衡含水率：一定の温度、湿度の条件の中に長時間放置すると最終的に安定する含水率。日本における平衡含水率は、一般に屋外で15%、屋内は12%とされていますが、地域により異なります。
- ・財団法人日本住宅・木材技術センターでは「建築用針葉樹材（乾燥材）の含水率基準」を策定していて、①柱類は20%以下 ②敷居、鴨居、長押等は18%以下、 ③床板、内装壁材等は15%以下10%以上であれば支障となるような狂いは生じないとしています。

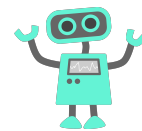


（日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋）

(2)  着るロボット 林業に リース、初期費用抑制

- ・奈良県川上村で、林業の作業軽減を目的とした装着型ロボットの導入が始まりました。
- ・スターアップ企業のATOUN（奈良市）と南都銀行が連携して、初期費用を抑えるリースの仕組みを整えました。
- ・ATOUNの「モデルY」は、重量が4.5kgと軽く、リュックのように背負って腰と両脚にベルトで固定するタイプで、腰の負担を和らげる効果があります。
- ・時間当たりの荷物運搬量が2割程度増えるなどの効果が期待できます。
- ・1台60～70万円。1台当たり月1万円程度の5年リースを設定。
- ・ATOUNはパナソニックと三井物産が出資し、パナソニック社の社内ベンチャーから出発。


(2018年10月10日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



(3)  カナダ産製材品 下落 対日価格 日米で住宅需要低迷

- ・ツーバイフォー住宅に使うカナダ産製材品の日本向け価格が下落。
- ・カナダ西部内陸産SPF（トウヒ・マツ・モミ類）の10～12月期の日本向け規格は、前四半期に比べ4%安く、2016年1～3月期以来の値下がり。
- ・米国で長期金利が上昇。住宅ローン金利が上がり、住宅投資が鈍っています。
- ・日本国内の4～8月の2x4住宅の新設着工数は、前年同期を4%下回りました。
- ・もともと、円に換算した価格は、前年同期に比べ3割高くなっています。
- ・対日価格は小幅に下がったものの、需要の喚起につながる可能性は低いようです。

(2018年10月13日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

(4)  北米産丸太 2か月連続下落 日本向け輸出価格

- ・北米産丸太の日本向け輸出価格が2か月連続で下落。
- ・米国の住宅投資が金利上昇や人手不足で鈍り、現地の製材品価格が下落。
- ・丸太も連動して安くなりました。前月比3%安くなっています。

(2018年10月19日 日本経済新聞記事から抜粋引用)